

第16回 日本仏教の展開(2)

- | | | |
|------|--|------------------------|
| 1 A | それ以前の仏教よりも実践的・庶民的で、とくに念仏・唱題・座禅のような簡素な信仰実践を特徴とし、武士や庶民の信仰を獲得した12・3世紀の宗教を総称して何というか。 | 鎌倉仏教 |
| 2 A | 天台教学を学ぶが満足せず、ひたすら念仏をとなえることによって阿弥陀仏の救いがえられるとの確信をえて、独自の宗派を開いた鎌倉初期の僧侶は誰か。 | 法然 |
| 3 A | 阿弥陀仏の名号をただひたすら称えるだけで救われるとする、法然の開いた仏教宗派を何というか。 | 浄土宗 |
| 4 A | 阿弥陀仏の救いを得るには、念仏こそが正しい修行であることを説いた法然の著書を何というか。 | 『選択本願念仏集』 |
| 5 A | 阿弥陀仏が修行時代にたてた誓願のうち、一切衆生の救済を念じた18番目の誓願をとくに何というか。 | (弥陀の)本願 |
| 6 A | 他のいっさいの修行を捨てて、ひたすら念仏によって阿弥陀の救済を願うことを何というか。 | 専修念仏 |
| 7 A | 仏や菩薩の救いの力を意味し、自力に對することばを何というか。 | 他力 |
| 8 C | 自力による救いをめざさず、浄土宗の阿弥陀仏の本願に立脚する信仰の立場を何というか。 | 他力浄土門 |
| 9 B | 自力難行の修行に対して、念仏という簡易な行によって阿弥陀仏の本願にすがろうとする浄土宗の修行のあり方を何というか。 | 他力易行門 |
| 10 A | 法然の弟子となったが、妻帯して自らを愚禿と称し、阿弥陀仏の本願にすがりきる他力の徹底化をはかった僧侶は誰か。 | 親鸞 |
| 11 A | 法然の他力念仏をさらに徹底し、その教えを真に継承しようとした親鸞を開祖とする仏教宗派を何というか。 | 浄土真宗 |
| 12 A | 念仏信仰のあり方に対する批判に反論するために、仏の真の教えと信仰の純粹さや悟りについて書かれた親鸞の著書を何というか。 | 『教行信証』 |
| 13 A | 親鸞の死後、弟子唯円が親鸞の中心思想を記した書物を何というか。 | 『歎異抄』 |
| 14 A | 念仏は自力で行っているのではなく、阿弥陀仏の慈悲によって念仏させてもらっているという、他力の徹底化を意味することばを何というか。 | 絶対他力 |
| 15 C | 阿弥陀仏を信じたときにはすでに救われており、念仏は阿弥陀仏に対する感謝の行為であるとする念仏のあり方を何というか。 | 報恩感謝の念仏 |
| 16 A | 自力作善の人以上に、善行をなしえず苦しみ悩む人にこそ阿弥陀仏の救いはあるのだという思想を何というか。 | 悪人正機説 |
| 17 A | 自力で善行をつむ人でさえ往生できるのであるから、それができずに悩む人こそ往生できるのだという意味の親鸞のことばは何というか。 | 「善人なおもて往生をとぐ、いはんや悪人をや」 |
| 18 B | この世のいっさいは、すべて阿弥陀仏のはからいによる自ずからなるはたらきにほかならないとする、親鸞の信仰の立場をしめすことばを何というか。 | 自然法爾 |
| 19 C | 親鸞の教えを簡潔な文体で記した御文によって教化活動を行い、不振の浄土真宗(一向宗)を再興した本願寺8世の僧侶は誰か。 | 蓮如 |
| 20 B | 天台教学を学んだのち浄土の教えに触れ、念仏こそ悟りへの道と考え、全国を遊行して「踊り念仏」を広めた鎌倉時代の僧侶は誰か。 | 一遍 |
| 21 B | 日常普段を臨終のときと心得て、称名念仏につとめることを説いた一遍の仏教宗派を何というか。 | 時宗 |
| 22 A | 中国に生まれた大乘仏教の二大宗派の一つで、浄土宗に対するもう一つの宗派を何というか。 | 禪宗 |
| 23 A | サンスクリット語のディヤーナの音訳で、静かに座って瞑想し心身の安定をはかる仏教の修行法の一つを何というか。 | 禪(禪定) |
| 24 A | 両足を組んで端坐瞑想する、禪宗の修行方法を何というか。 | 坐禪 |

25 A	自己に仏性のあることを確信し、自らの努力によって悟りを開こうとする立場を何というか。	自力
26 C	阿弥陀仏の本願にすがる他力の救いに対して、自力による救済を特徴とする立場を何というか。	自力聖道門
27 C	浄土宗の念仏による修行に対して、自らの努力によって悟りを開く修行のあり方を何というか。	自力難行門
28 A	天台教学を学んだのち宋に渡って禅宗をもち帰り、新しい宗派を開いた平安末から鎌倉初期の僧侶は誰か。	栄西
29 A	独特の問答形式による修行を特徴とし、仏教文化にも多大の影響をあたえた栄西によって開かれた仏教宗派を何というか。	臨済宗
30 C	栄西の宗派が参禅のとき、師が弟子にあたえる知識や分別では解きえない問題のことを何というか。	公案
31 B	禅宗が国家鎮護の使命をもつことを説いた栄西の著書を何というか。	『興禅護国論』
32 A	比叡山で密教・顕教を学んだが満足できず、栄西の門にはいったのち宋に渡り、行住坐臥のすべてが仏法であることを教えられて帰国し、新しい宗派を開いた鎌倉時代の僧侶は誰か。	道元
33 A	ひたすら坐禅することがただちに悟りであると教える、道元の開いた仏教宗派を何というか。	曹洞宗
34 A	末法思想の否定や自力坐禅について書かれた道元の著書を何というか。	『正法眼蔵』
35 B	道元の弟子懷奘が、師の教えやことばを記録した書物を何というか。	『正法眼蔵随聞記』
36 A	焼香や礼拝や念仏などのいっさいの行為を排除して、ただひたすら坐禅を行うことを何というか。	只管打坐
37 A	坐禅によって身体も精神も執着を離れ、仏と一体化して自由と安らぎの境地にはいることを何というか。	身心脱落
38 A	道元は、仏道を求めるということを「仏道をならふといふは、()をならふなり、()をならふといふは、()をわするるなり」と表現したが、このことばの中の()に入る共通の語は何か。	自己
39 A	坐禅は悟りへの手段ではなく、坐禅がそのまま悟りであるという道元の基本的立場を何というか。	修証一等
40 A	鎌倉・比叡山・奈良をめぐる諸宗を学び、法華経こそ仏の真実のことばを伝えるものと確信し、新しい宗派を開いた鎌倉時代の僧侶は誰か。	日蓮
41 A	法華経こそ仏教の真髄であるとする、日蓮の開いた仏教宗派を何というか。	日蓮宗(法華宗)
42 A	法華経による正しい仏法の興隆を説いて他宗を厳しく排斥し、国難の到来を予言して鎌倉幕府に献上された日蓮の著書を何というか。	『立正安国論』
43 A	永遠の生命をもつ仏陀が語った真実のことばが記されているとされ、日蓮が至高の大乗仏教典としたものを何というか。	『法華経』
44 C	久遠の昔に成仏し、以後、人びとに教えを説きつづけているとされる仏陀のことを何というか。	久遠実成の仏
45 A	「法華経に帰依たてまつる」という意味のことばを何というか。	「南無妙法蓮華経」
46 A	仏教の真理が集約されているとされる、「南無妙法蓮華経」の七文字を何というか。	題目
47 A	「南無妙法蓮華経」の七文字を唱えることを何というか。	唱題
48 A	法華経を広め実践する人のことで、日蓮その人のことをさすことばを何というか。	法華経の行者
49 C	法華経の重大さを説いて他宗を非難し、法華経に帰依させることを何というか。	折伏

50 B	「念仏無間・禪天魔・真言亡国・律国賊」として、日蓮が行った他宗排斥のことばを何というか。	四箇格言
1 A	この世のすべての存在は、つねに変化しており永遠なものは一つとしてないという、仏教の縁起説にもとづく世界観を何というか。	無常観
2 B	この世のすべての存在は、つねに変化しており永遠なものは一つとしてないという世界観にもとづいて自然や人生をながめ、そこに空しさとともに美しさもみようとする日本的な美意識・人生観を何というか。	無常感
3 B	全編が仏教的無常観によって貫かれた、平氏一族の栄枯盛衰を描いた軍記物語を何というか。	『平家物語』
4 B	この世の無常を感じて武士の身分を捨て、生涯を旅におくった平安末期の歌人は誰か。	西行
5 B	混乱する世相に無常を感じ、神官の職を捨てて出家・隠遁の生活にはいり、うつりゆく世のはかなさを随想録として記した鎌倉初期の歌人は誰か。	鴨長明
6 B	「行く川の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず」という無常観に満ちた書き出しではじまる鴨長明の作品を何というか。	『方丈記』
7 B	動乱の世の人間と社会を鋭く観察し、それを思いつくままに綴った鎌倉末期の随筆家は誰か。	吉田兼好
8 B	日々のできごとを心のおもむくままに書き綴った、無常観と独自の美意識に貫かれた吉田兼好の作品を何というか。	『徒然草』